

令和5年度 基本施策評価シート

作成日

令和5年7月12日

基本施策	G4	芸術文化あふれる暮らしを創出します		
2025年度に めざす姿	対 象		意 図	
	市民が		芸術文化を楽しみ、心豊かに生活している。	
第五次総合計画[前期基本計画]基本施策掲載ページ			206ページ	
基本施策主管課名	文化振興課	関係課名	学校教育課、生涯学習企画課	

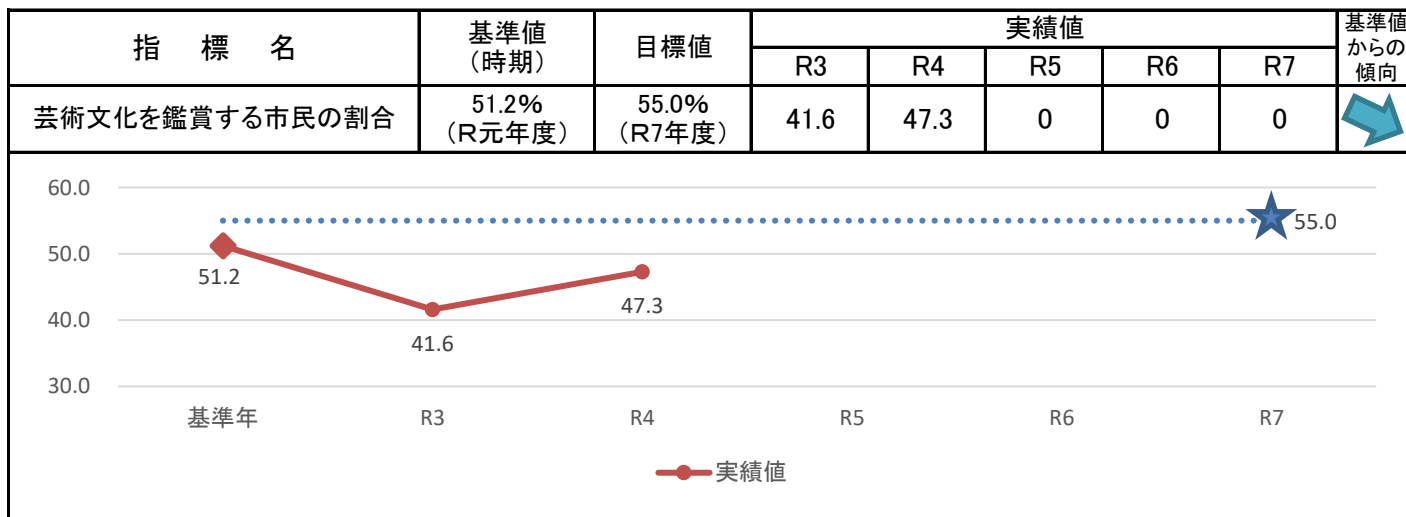
基本施策の総合評価

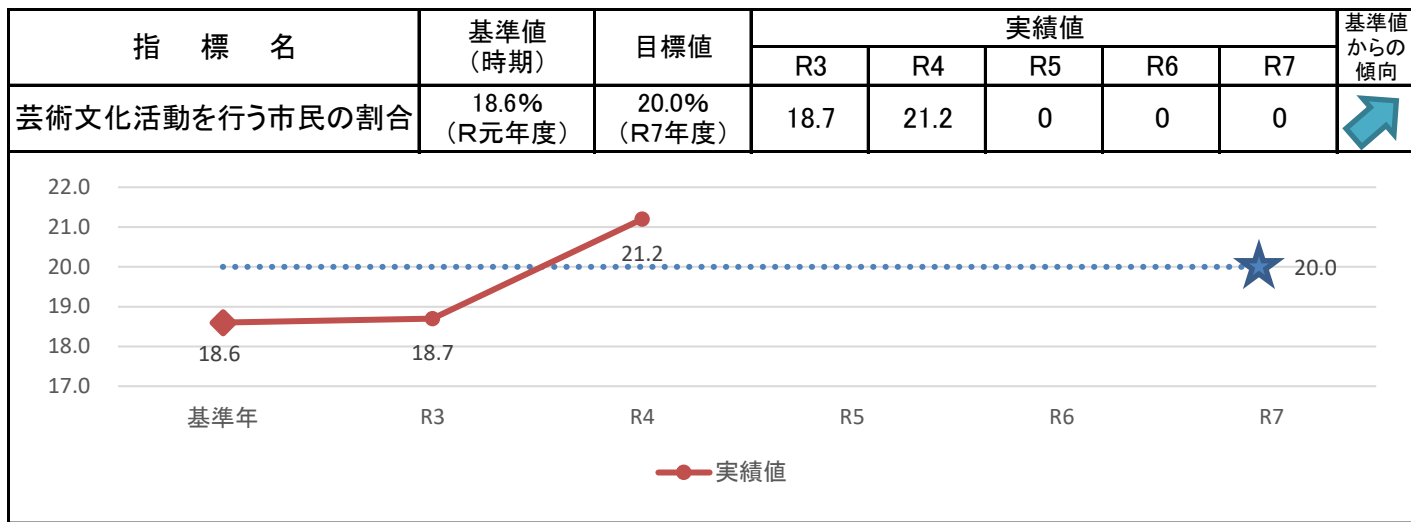
総括	<ul style="list-style-type: none"> ●基本施策の成果指標である「芸術文化を鑑賞する市民の割合」は、47.3%(令和4年度実績)で、令和3年度実績よりも5.7%上昇していることから、コロナ禍で減少した芸術文化に触れる機会は、徐々に回復している状況であるものの、2025年度(令和7年度)に目指す姿である55.0%を下回っており、芸術文化に対する興味・関心がある市民が少ないことから、芸術文化に触れる機会や魅力の発信が十分でないことが要因であると考えている。 ●基本施策の成果指標である「芸術文化活動を行う市民の割合」は、21.2%(令和4年度実績)で、2025年度(令和7年度)に目指す姿である20.0%を達成している。 <p>以上を踏まえ、今後の主な取組みは次のとおりとする。</p>
G4-1	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍により子どもたちの芸術文化活動が制限されることが多かったことから、子どものときにしか体験できない未就学児を含む子どもを対象とした事業に積極的に取り組み、子どもの頃から芸術文化に親しみ、楽しむ機会を創出する。 ●芸術性や専門性の高い公演に対応でき、市民が利用しやすい新たな文化施設の整備に向けて引き続き取り組む。
G4-2	<ul style="list-style-type: none"> ●引き続き、子どもや親子向け事業の充実や若者向け事業を実施し、市民の芸術文化に対する興味・関心を高めるとともに、芸術文化振興奨励金や芸術文化活動助成金の交付等により、市民や文化団体の自主的な芸術文化活動の活性化に向けた支援を行う。

二次評価(施策評価会議による評価)

●	基本施策の総合評価の総括において、成果指標の目標値と比較した実績値に関する増減などの動向しか記載されていないことから、成果指標である定量目標及び定性目標の「めざすべき姿」から現状をしっかりと分析し、順調に進んでいるのか、問題点と要因を踏まえた課題がないのかといった評価を行うこと。
●	G4-1の「今後の取組方針」「新たな文化施設の整備に向けた検討」に関する記載内容については、二次評価会議時点の適切な表現に修正すること。

成果指標





年度別 主な取組内容

R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
・自主文化事業の充実による子どもから大人まで幅広い市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出(実施回数61回、参加・入場者数2,017人)			

令和5年度 個別施策評価シート

個別施策	G4-1	芸術文化に触れる機会を創出します
2025年度に めざす姿	対 象	意 図
	市民が	様々な芸術文化に身近に触れている。
個別施策主管課名	文化振興課	

成果

① 市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出

●子どもから大人まで幅広い市民が身近に芸術文化を鑑賞したり、活動に参加してもらうため、学校やふれあいセンター等の身近な場所でプロの演奏家による質の高い音楽に触れるアウトリーチコンサートや親子向けコンサート等を実施(15回)したほか、「Nagasakiまちなか文化祭」については、新型コロナ感染防止のためステージイベントを中止したが、内容を変更し、観光通りにおいて通行人が気軽に参加できるいけばな、ハンドベル、お絵描きの体験イベントを実施するなど自主文化事業に2,017人が参加し、市民が様々な芸術文化に触れることができた。

●遠藤周作が生誕して令和5年3月27日で100年を迎えたことから、令和4～5年度を遠藤周作生誕100年の記念の年とし、特別企画展や文学館公式ガイドブック創刊など記念事業を実施し、遠藤文学の魅力を広く市内外へ伝え、遠藤文学の魅力や遠藤周作の功績に触れる機会を創出するとともに、それらを次世代につなぐきっかけにつなげた。

② 新たな文化施設の整備に向けた検討

●新たな文化施設の整備に向けて、建設予定地である旧市庁舎本館敷地の測量及び土質調査を行うとともに、文化振興審議会等で意見を聴取しながら基本計画素案を作成し、パブリック・コメントを実施した。

問題点とその要因

① 市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出

●「Nagasakiまちなか文化祭」について、新型コロナ感染防止のためステージイベントを3年間中止しており、市民が発表する機会や芸術文化の魅力を生で体感できる機会が減少した。

●新型コロナが流行しはじめた初期の頃から、イベントの自粛要請、コンサートや公演の中止など、芸術文化分野の活動が制限され大きな影響を受けたことから、演奏家や俳優、ダンサーなど芸術文化分野の道にあらがれる子どもが減る可能性があることが懸念される。

② 新たな文化施設の整備に向けた検討

●新たな文化施設の整備に向けた取組みを進めることができたが、長崎市公会堂の廃止後、長崎ブリックホールの稼働率の高い状態が続く、市民が芸術文化に触れる機会が減少していることから、継続して整備に向けた検討を行う必要がある。

今後の取組方針

① 市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出

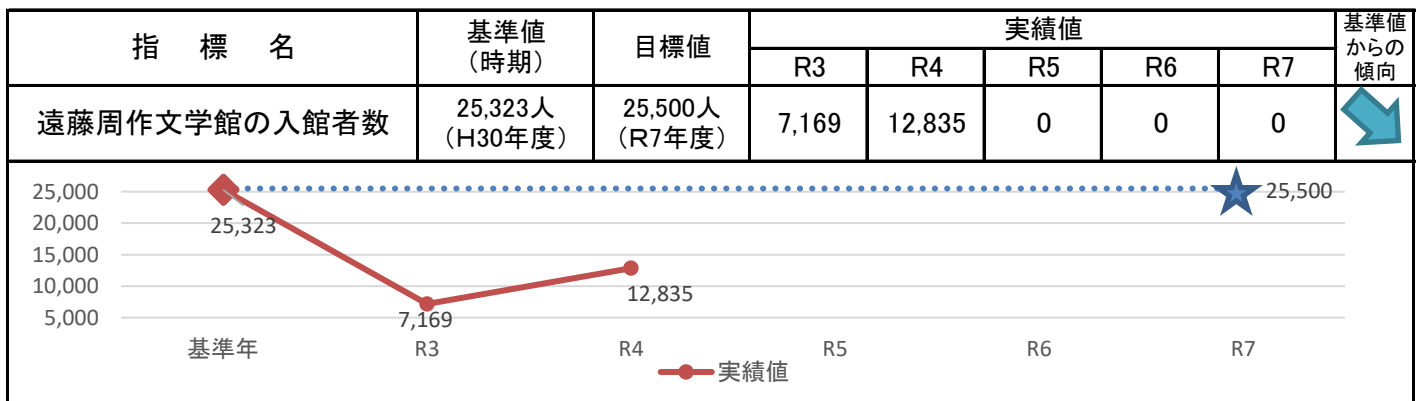
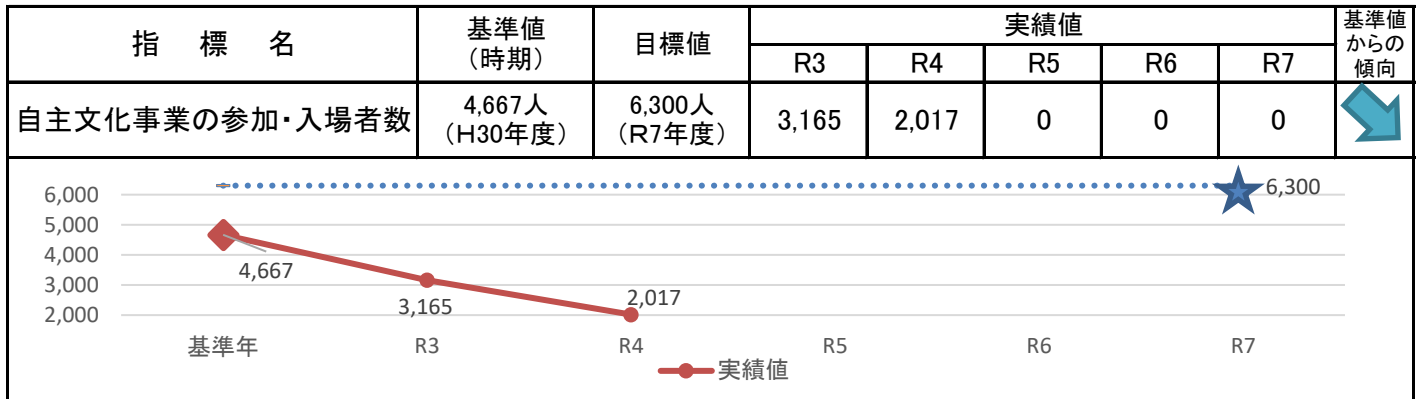
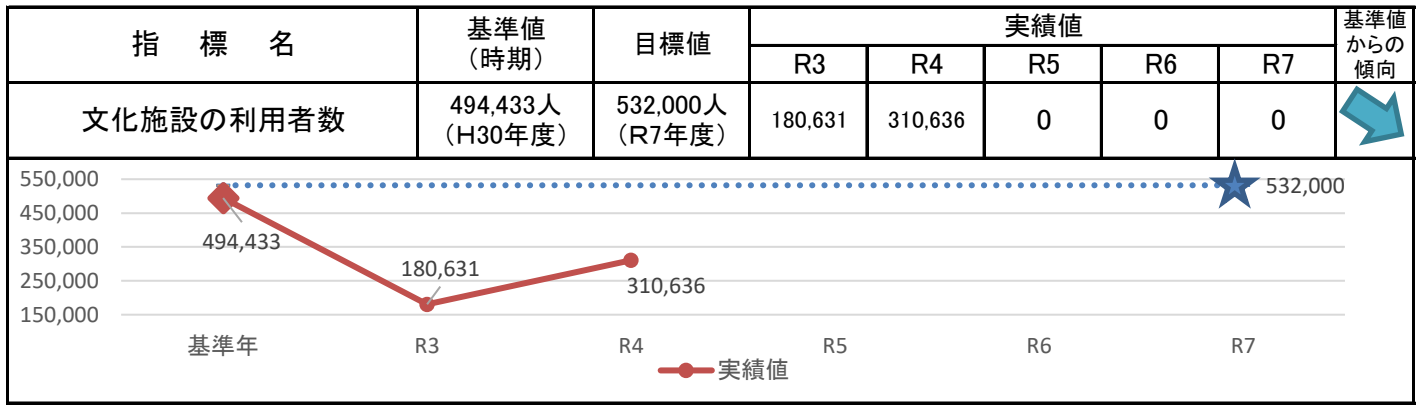
継続 ●自主文化事業については、基本的な感染症対策を施しながら、コロナ禍前のように芸術文化の魅力を生で体感できるよう、本来の姿での事業実施を再開していく。また、子どもたちにとっても芸術文化活動が制限されることが多かったため、子どものときにしか体験できない未就学児を含む子どもを対象とした事業に積極的に取り組む、子どもの頃から芸術文化に親しみ、楽しむ機会を創出する。

継続 ●遠藤周作生誕100年記念事業については、引き続き、遠藤文学の魅力を市内外に発信するとともに、特に若い世代が遠藤文学に触れる機会を創出する事業を実施し、次世代につなぐ取り組みに注力する。

② 新たな文化施設の整備に向けた検討

継続 ●令和5年度は、これまでの経緯も踏まえ、まちづくりのグランドデザインの議論や様々な関係者の意見や環境の変化等、多面的な視点を踏まえ再度整理検討しながら、施設の運営にあたり必要な事業計画、組織計画、施設管理計画等について定める管理運営計画の策定を進める。

成果指標



施策を推進する主な事業

1	事業名 担当課	音楽の魅力発信事業費	文化振興課
	事業目的	市民生活に音楽芸術を広く浸透させるとともに、次世代の芸術文化活動を担う人材の育成を図る。	
	事業概要	中央及び地元で活躍する演奏家を、学校やふれあいセンター等へ派遣して行うアウトリーチコンサートや、ホールでのコンサート等を開催する。また、地元演奏家が活動できる場を設け、演奏家のスキルアップを図る。	
	取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチコンサート 開催回数13回、入場者数471人 ・親子向けコンサート 開催回数1回、入場者数21人 ・ミニコンサート 開催回数1回、入場者数79人 	
	決算(見込)額		4,189,513 円



【音楽の魅力発信事業】

2	事業名 担当課	Nagasakiまちなか文化祭開催費	文化振興課
	事業目的	芸術文化活動を行っている個人・団体の発表の場や市民が身近に芸術文化を楽しむことができる機会を創出するとともに、まちなかの賑わいにもつなげる。	
	事業概要	「Nagasakiまちなか文化祭」と称し、出演者を公募し審査により選考後、音楽、パフォーマンス、演劇などのステージ発表及び美術作品の展示を行う。	
	取組実績	<p>新型コロナ感染防止のためステージイベントは中止し、内容を変更して体験型イベントを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いけばな体験: 大きな土台に参加者(通行人)が花を1輪ずつ生け、参加者全員による一つの大きないけばな作品を創った。(参加者数366人) ・お絵描き体験: 参加者(通行人)が鱗の形の用紙に絵やメッセージを描き、龍の体が描かれた大きな絵に鱗を貼り付け、大きな龍のアート作品を創った。(参加者数71人) ・ハンドベル体験: いろいろな大きさのハンドベルを展示するとともに、参加者(通行人)が音を鳴らしてハンドベルを体感した。(参加者数123人) 	
	決算(見込)額		381,556 円



【Nagasakiまちなか文化祭】

3	事業名 担当課	遠藤周作生誕100年記念事業費	文化振興課
	事業目的	遠藤周作が生誕して令和5年3月27日で100年を迎えたことから、令和4～5年度を遠藤周作生誕100年の記念の年とし、この貴重な唯一の機会を活かして遠藤文学の魅力を広く市内外へ伝え、その功績を称えるとともに、それらを次世代につなぐ。	
	事業概要	特別企画展の開催や文学館公式ガイドブックの創刊等	
	取組実績	特別企画展の開催(会期R5.3.27～R6.9.26)、文学館公式ガイドブックの創刊(R5.3.27発売)、記念講演会の実施(R5.3.25開催・入場チケット300枚完売)、記念式典の開催(R5.3.27実施)、記念切手の発行・販売(R5.3.23発売)、広報プロモーションの実施、遠藤周作アーカイブ映像の制作	
	決算(見込)額		17,712,107 円

4	事業名 担当課	新文化施設整備推進費	文化振興課
	事業目的	芸術性や専門性の高い公演に対応でき、市民が利用しやすい新たな文化施設を整備する。	
	事業概要	令和元年7月に策定した基本構想に基づき、さらに具体的な検討を進め、施設機能や施設構成、規模等について整理した基本計画の策定を行う。	
	取組実績	・令和2年度から4年度まで、文化振興審議会(全10回)及び市民ワークショップ(全5回)を開催し、幅広い意見を聴取しながら、基本計画素案を作成し、パブリック・コメントを実施した。	
	決算(見込)額		19,289,336 円

5	事業名 担当課	新文化施設整備事業費	文化振興課
	事業目的	芸術性や専門性の高い公演に対応でき、市民が利用しやすい新たな文化施設を整備する。	
	事業概要	芸術性や専門性の高い公演に対応でき、市民が利用しやすい新たな文化施設を整備する。	
	取組実績	・建設予定地である旧市庁舎本館敷地の測量及び土質調査の実施 ・基本計画の策定に向けた文化振興審議会の開催	
	決算(見込)額		25,123,880 円

令和5年度 個別施策評価シート

個別施策	G4-2	市民の自主的な芸術文化活動の活性化を図ります
2025年度にめざす姿	対象	意 図
	市民が	自主的な芸術文化活動を活発に行っている。
個別施策主管課名	文化振興課	

成果

<p>① 市民参加・普及啓発型事業の展開</p> <p>●芸術文化活動を新たに始めたり再開する人を増やすため、アーティストが学校に出向いて演劇体験を実施する演劇アウトリーチ(15回)、様々な年代を対象にした演劇、ダンス、リーディング体験教室(11回)、こども伝統文化体験教室(日本舞踊4日間、いけばな2回、箏5日間)のほか、初めての取り組みとして高校生から30代までの若者を対象にいけばな体験・音楽鑑賞会(1回)を開催し、市民の芸術文化に対する興味・関心を高めた。</p>
<p>② 市民の自主的な芸術文化活動を活性化する取組み</p> <p>●大人になっても芸術文化活動を続ける市民を増やすため、部活動以外で芸術分野の全国大会等に出場した小中学生及び高校生に対し芸術文化振興奨励金を交付(12件)し、子どもの芸術文化活動を応援することにより、さらなる活動意欲を高めるとともに保護者の経済的負担の軽減が図られた。</p> <p>●R3年3月に開設した芸術文化専用ホームページ「ながさき文化のひろば」において、各種助成金の募集情報や利用登録団体のイベント情報などを発信し、自主的な芸術文化活動の振興を図った。</p>

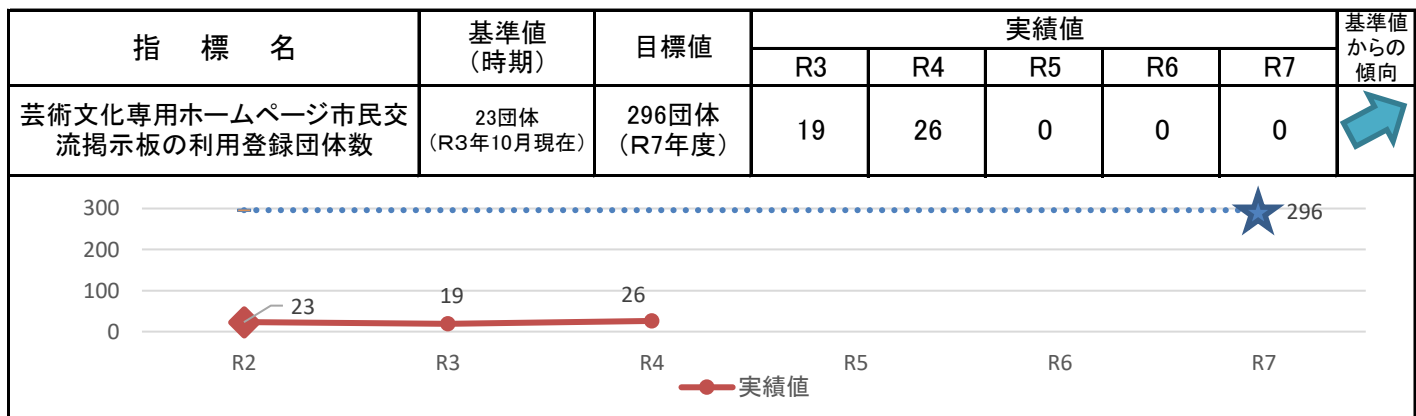
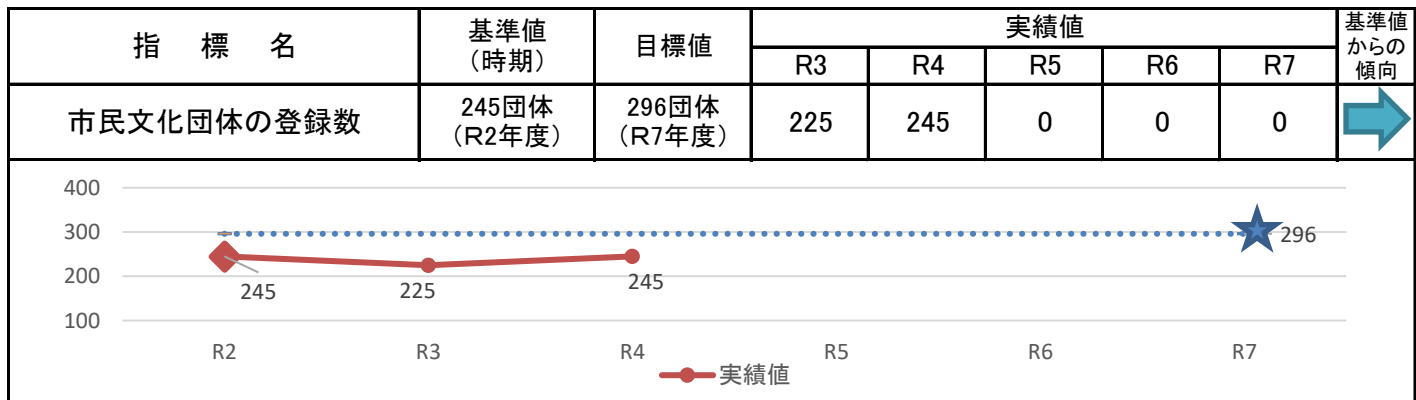
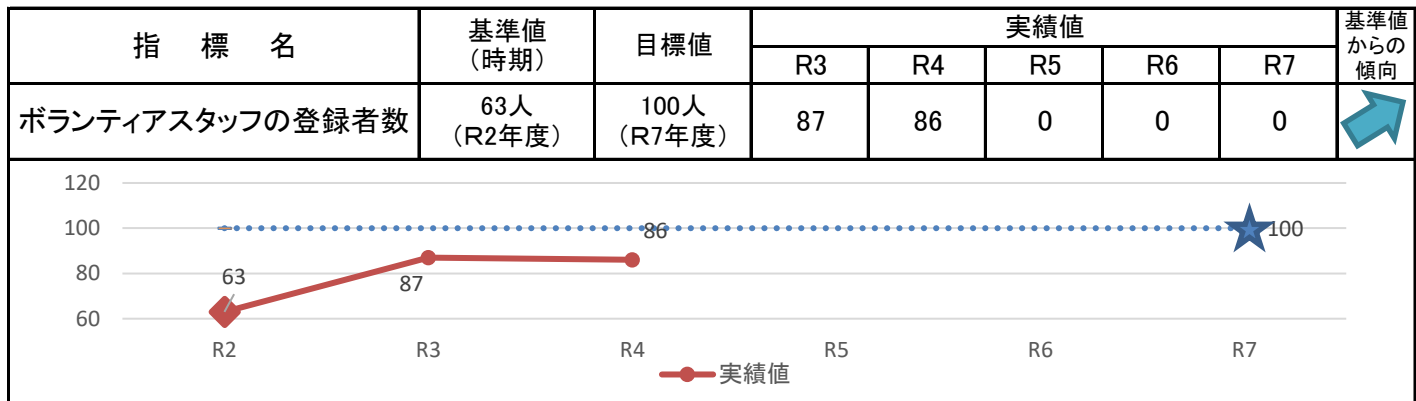
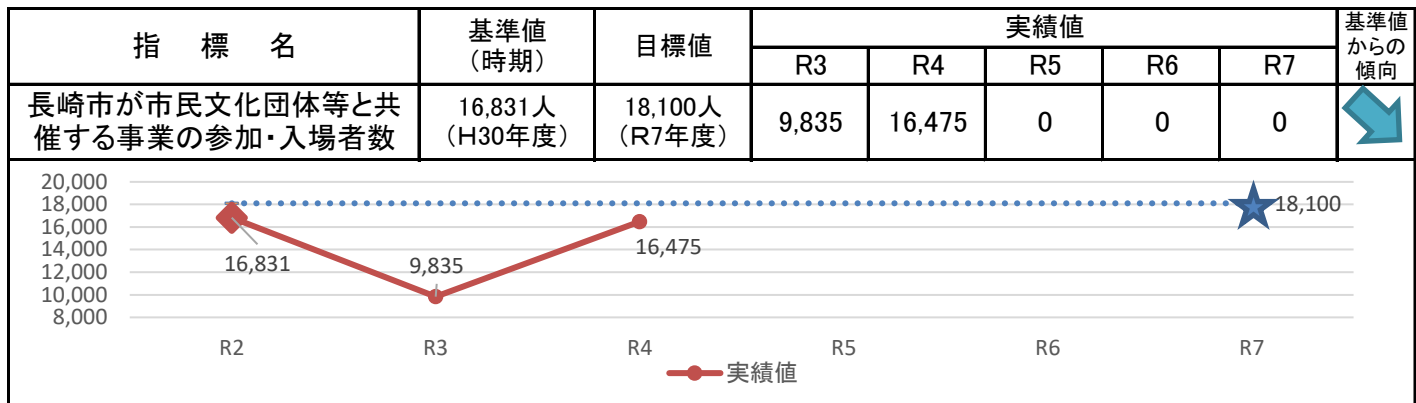
問題点とその要因

<p>① 市民参加・普及啓発型事業の展開</p> <p>●初めての取り組みとして若者を対象とした体験事業を実施したが、申込者数が少なかったことから、体験内容の魅力の周知が十分できていないこと、また、若者が参加しやすい曜日や時間帯にするなどの工夫が不足していることが要因であると考えられる。</p>
<p>② 市民の自主的な芸術文化活動を活性化する取組み</p> <p>●芸術文化振興奨励金について、申請件数が少なかったことから、新型コロナウイルスの影響で大会等の中止や参加自粛により大会等に出場する機会が少なかったこと、また、制度の周知が十分でないことが要因であると考えられる。</p> <p>●ホームページの市民交流掲示板機能について、利用登録団体の増加及び活用促進を図るため周知に努めたが、わずか7件しか増加しておらず、ホームページの周知が不足していること、また、コロナ禍で周知する催事情報が少なかったことから、十分な機能活用に至らなかったことが要因であると考えられる。</p>

今後の取組方針

<p>① 市民参加・普及啓発型事業の展開</p> <p>●若者を対象とした体験事業について、若者が興味・関心を持つイベント名称やちらしデザインにするなどの工夫を行い、スマホ等で気軽に情報を入手できるよう引き続きホームページ、ツイッター、ラインなどSNSを活用した周知を行うとともに、開催曜日や時間帯についてアンケートを実施するなどニーズを把握することで、参加者を増やす。</p>
<p>② 市民の自主的な芸術文化活動を活性化する取組み</p> <p>●芸術文化振興奨励金について、教育委員会とも連携し効果的・効率的な方法での周知に努める。</p>
<p>●ホームページの市民交流掲示板機能について、利用登録団体の増加及び活用促進を図るため、よりメリットが伝わるよう内容を工夫したちらしを作成するとともに、引き続き、様々な機会を捉えて周知を図る。</p>

成果指標



施策を推進する主な事業

1	事業名 担当課	市民参加型舞台公演等開催費	文化振興課
	事業目的	市民に演劇の台本制作や舞台公演に参加する機会を提供し、舞台芸術に係る人材育成と活動の活性化を図る。	
	事業概要	公募で集まった市民と一緒に舞台作品を作り公演するとともに、様々なワークショップを開催し、市民が気軽に舞台芸術に触れる機会を創出する。また、長崎では鑑賞する機会が少ない著名な劇作家・演出家が手掛ける質の高い舞台芸術作品を招聘し、新たな観客の獲得につなげる。	
	取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・演劇アウトリーチ 開催回数15回、参加者数410人 ・ダンスワークショップ 開催回数6回、参加者数83人 ・こども演劇体験教室 開催日数7日間、参加者数16人 ・リーディング講座 開催回数4回、参加者数145人 	
	決算(見込)額		3,750,451 円



【市民参加型舞台公演等開催事業】

2	事業名 担当課	芸術文化体験教室開催費	文化振興課
	事業目的	子どもや若い世代から大人まで、気軽に伝統文化や芸術文化を体験できる機会を創出し、芸術文化活動に対する興味・関心を高める。	
	事業概要	様々なジャンルの芸術文化に楽しみながら触れる機会を創出し、裾野の拡大を図る。	
	取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・こども伝統文化体験教室 日本舞踊:4日間 参加者数延40人、いけばな:2回 参加者数30人、箏:5日間 参加者数延51人 ・活版印刷体験 開催回数1回、参加者数27人 ・豆本製作体験 開催回数2回、参加者数29人 ・写真ワークショップ 開催回数1回、参加者数15人 ・ステンドグラス体験 開催回数3回、参加者数24人 ・若者向け芸術文化体験 開催回数1回、参加者数16人 	
	決算(見込)額		1,739,339 円

3	事業名 担当課	芸術文化大会等出場奨励事業費	文化振興課
	事業目的	芸術文化大会に出場する小中学生及び高校生に対して助成することで、芸術文化の振興と活動の活性化につなげる。	
	事業概要	小中学生及び高校生が、部活動以外で芸術文化分野の全国大会等に出場する場合、奨励金を交付する。	
	取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化振興奨励金 交付実績12件、180,000円 	
	決算(見込)額		180,000 円

4	事業名 担当課	マダムバタフライフェスティバル開催費負担金	文化振興課
	事業目的	演奏家や主催団体の連携により、多くの市民が音楽を楽しむ機会を創出し、芸術文化への興味・関心を高めるとともに、文化団体等のネットワークの構築を図る。	
	事業概要	市、市内文化団体、大学等で構成する実行委員会により、子どもから大人まで楽しめる長崎が舞台のオペラ「マダム・バタフライ」をテーマとしたコンサートや気軽に音楽や楽器に親しめるイベントを開催する。	
	取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・プッチーニおじさんのおんがく物語(オペラを子どもも楽しめるよう音楽物語に仕立てたコンサート) 入場者数646人 ・たのシックフェスティバル2022秋(子どもから大人まで気軽に音楽や楽器に親しむことができる体験型イベント) 入場者数 1,317人 ・イタリア・ルッカ市との芸術文化を通じた国際交流 参加者30人 	
	決算(見込)額	4,000,000	円



【マダムバタフライフェスティバル】